めぐろで活躍する人を紹介

ひとりぐめ

vol. 51

子どもたちと自由が丘に映画文化を根付かせたいです

自由が丘映画プロジェクト講師

田中（たなか） 雄之（たけし）さん（42歳）

Jiyugaoka ART Community Web はこちら→

宮崎大学地域資源創成学部准教授。慶應義塾大学経済学部卒業後、大手広告代理店での勤務を経て、東京藝術大学大学院で映像を学び独立。「株式会社コトプロダクション」を設立。幼少期から映画制作への憧れを持ち、その情熱を原点に、自由が丘を舞台にした「自由が丘映画プロジェクト」に参加する。

10歳未満の子どもたちがつくる映画

「街の未来を担う子どもたちの感性を育む場所へ」をコンセプトに、イベントでアートブース出展やワークショップなどを展開し、アートを軸に街づくりを目指す自由が丘商店街振興組合のプロジェクトチーム「Jiyugaoka ART Community」が企画する「自由が丘映画プロジェクト」。そこで講師を担当するのは、映画監督・プロデューサーの田中雄之さん。「2回目となるこのプロジェクトでは、子どもたちの自由な発想とプロの技術を融合させた映画制作に挑戦しています」。そう話す田中さんが、まずは映画制作の技法を教えます。その後子どもたちが物語を考え、大人たちと撮影・編集を行い、発表会で完成作品を披露します。

プロの挑戦に込められた、自由が丘への想い

かつて自由が丘に存在した映画館「自由が丘武蔵野館」（2004年閉館）で見た作品に影響を受け、幼少期から映画制作に熱中したという田中さん。大学卒業後は大手広告代理店で活躍しながらも、幼少期の映画作りの夢を思い出し退職し、芸術大学へ。その後、映像などのコンテンツを企画制作する会社を立ち上げました。

今では数々の作品を世に送り出している田中さんですが、街の人々と語り合う中で芽生えたのが、自由が丘で触れた映画文化を復活させたいという想いでした。「自由が丘に映画館をつくる」という目標を掲げ、まずは街の皆さんに映画を好きになってもらおうと参加したのが、このプロジェクトです。

映画祭出品を目指し、原石を磨く

今回のプロジェクトで完成した作品は、国内外の映画祭へのエントリーも考えていると田中さんは語ります。プロジェクトの真骨頂である「子どもたちの発想」をできる限り生かすためにはどうすればよいかと試行錯誤が続きます。「映画制作のワークショップ自体が楽しかった!で終わらせず、作品にどう落とし込めるか。子どもたちのアイデアをどう作品にプロデュースできるか。困難な挑戦だと思っているので、やりがいがありますね」とすでに進行しているプロジェクトでの子どもたちの豊かな発想を楽しそうに語ってくれました。

今後はこのプロジェクトを継続して、「映画って面白いね」「自由が丘に映画館があったら素敵だね」と街の方々に感じてもらいたいと話す田中さん。「大人でも映画作りに興味があるかたがいたら、ぜひ一緒にやってみませんか」と、映画文化を育む仲間を呼びかけています。

身近な自然を楽しむ！

目黒自然図鑑 87号

区民の皆さんから
お寄せいただいたいきもの
情報を厳選してご紹介!

シジュウカラ

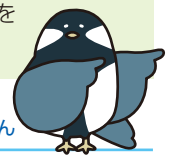
［場所］菅刈公園（令和7年3月撮影）

1年中、街中で見られます。繁殖期以外は小群をつくり、庭や公園などで生活します。

特徴

黒い頭にくっきりと白い頬の模様、胸にある黒いネクタイ模様が特徴。ヒナを育てるためにたくさんの虫を捕らえる。

私たちは子育てに巣箱も利用するから、みんなもお家で巣箱を設置してみてはどうかな。区では年1回（1月頃を予定）、巣箱を配布しているよ。



シジュウカラさん

いきもの情報募集！

ガマ博士

区内で観察した自然、いきものなどの情報をお寄せください。

申 区Web/FAX/郵送/Eメール（郵便番号・住所、氏名、いきものの名前、観察日時・場所）

問 先 みどり土木政策課みどりの係
（〒153-8573目黒区役所〈住所不要〉、
✉sizen@city.meguro.tokyo.jp）

語ろう人権 家庭で地域で

心の輪

共に生きる社会へ
～障害者の人権を考える

問 人権政策課人権・同和政策係（☎5722-9214、FAX5722-9469）

「障害」は社会の側に

障害とは、心身の状態ではなく、社会の側にある障壁が生み出しているという考え方が広まりつつあります。例えば、車いすを使うかたにとっては段差が、聴覚障害のあるかたには音声のみの案内が障壁となります。また、「支援する側・される側」という固定観念も、見えない障壁の一つです。大切なのは、一方的な思いやりではなく、対話を通じて相互理解を深め、共に考える姿勢です。

障害者差別解消法では、障壁の除去を求められた場合、過重な負担とならない範囲で合理的配慮を提供することが義務付けられています。車いす用のスロープの設置、視覚障害があるかたへの音声読み上げや点字の提供などがその例です。合理的配慮は、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりの基盤となります。

対話から広がる未来

ある福祉工房では、障害の特性に応じて作業手順を図解化し、個々のペースを尊重した結果、意欲と効率が向上しました。

また、目黒区美術館で開催している障がいのあるアーティストによる作品展で全盲のかたと一緒に鑑賞するツアーを行った際には、対話を通じて作品の新たな魅力に気づくことができたという声が寄せられました。

区は、障害のあるかたも、ないかたも、自分らしく輝きながら交流できる機会の創出が重要だと考えています。めぐろ芸術文化振興プランでは、誰もが芸術文化に触れ、参加できる環境づくりを進めています。まずは一歩を踏み出し、対話を重ねることから始めてみませんか。

凡例 時日時 場会場 内内容 師講師 対対象 定定員 ¥費用 申申し込み 先申込先 問問い合わせ Webウェブサイト ◎申込期限に（消印有効）の記載がない場合は必着です